

第3回日本ロービジョン学会

中心外視力ロービジョン者に対する携帯型自動合焦拡大鏡の有用性

医療法人慶明会 宮崎中央眼科病院

○原田 一道、大浦 福市、三瀬 一之、土屋 利紀、吉村 篤治

目的：我々が、ロービジョンエイドのひとつとして、新規に開発した携帯型自動合焦拡大鏡（アイファイン™）の有用性については既に報告した。今回は同拡大鏡を使用して、黄斑疾患のため中心暗点を有するロービジョン者に限ってその活用について検討を行ったので報告する。

対象と方法：平成13年12月1日から平成14年5月31日の間に当院を受診した6症例を対象に、既存の単眼弱視鏡と、新規に開発したアイファインを使用し、視機能矯正に対する有用性を比較検討した。症例の平均年齢は46歳で、対象疾患は網膜色素変性症・緑内障・糖尿病網膜症・レーベル病・網膜剥離等であった。

結果：中心暗点のため中心外視力のロービジョン者では、単眼鏡を用いては視標を確認することが出来にくい為約20分の訓練でも、視力改善を得ることは困難であった。一方、アイファインを使用しての視標確認は5分以内の短時間で指標を確認できた。これはアイファインの視野角が16.4°と従来のものより広い為でもあるが、本拡大鏡は接眼部が眼鏡フレームに固定されている為に、頭位を変えて見る必要のある中心外視力者に応用しやすくなった為と考えられた。

結論：一般のロービジョン者以外に、黄斑異常の为中心暗点を有する中心外視力者においても、アイファインを適切に装用することで、視力改善に役立つことがわかった。